

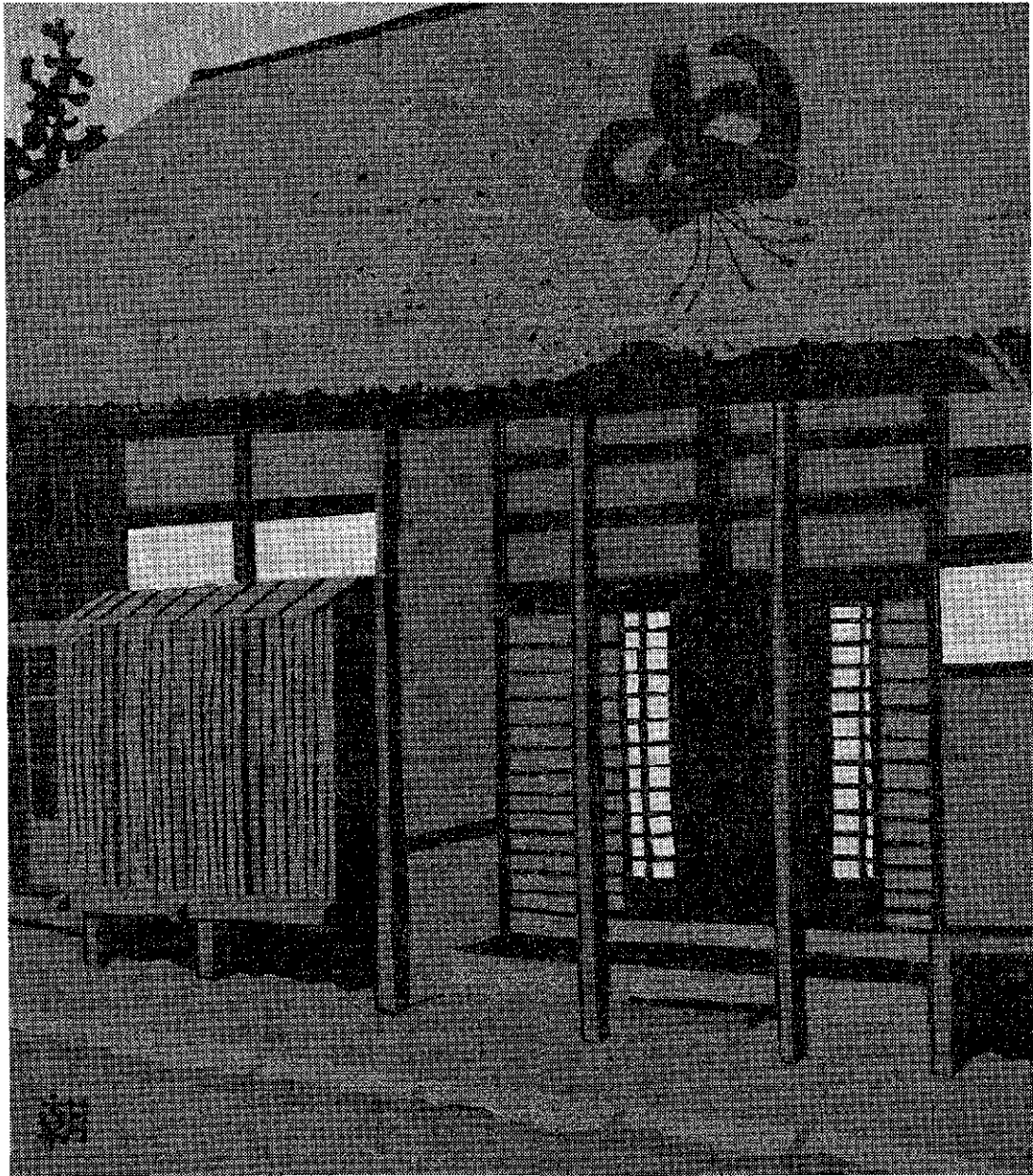
新潟県

公民館月報

昭和58年10月号

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (0252) 24-6073】【振替新潟0-4049】

発行人 会長 石井 耕一
編集人 事務局長 本田 清
【定価1部 100円 年共 1,200円】



「乗り込み間」のある家

公民館の版画教室グループが東蒲原の民家をテーマに訪ねた渡部家は、津川駅から十一軒会津街道沿いの界境近くであり、重厚な茅葺屋根が完全な姿を残していました。

この家の建築は約百五十と百六十年前と推定され、間口十三間半、奥行五間半の平屋建です。正面中程に大きな入口のある部屋を「乗り込みの間」と言い、十二畳と二間の床の間が付いています。

領主(会津藩)の行政視察や新発田、村上の殿様が参勤交代の際に籠のまま乗り込んだと言われており、街道筋のいわゆる本陣形式を残しています。ほかに「殿様の間」、「家老の間」と「のいの間」などがあります。家族の住む茶の間の前側には、物資中継の間屋を兼ねていたので「帖付場(事務室)」があり、嘉永四年と記された看板も残されています。

絵・文 石田 朝美

新発田市立東中学校教諭、日本教育版画協会全国委員、新潟県教育版画的会会長

神奈川で第24回関公連大会



(白熱したシンポジウム)

中核施設の役割を問う

白熱したシンポジウム展開

本県から、石井会長以下十八名が参加して、十七分科会に分る。本田県公連事務局長は「地域の子どもたちを公民館」分科会の司会者。また、藤市立公民館青少年係長藤田清輝氏は同分科会発表者として「地域の子ども会活動と育成会」について発表。本県社教主事の堀藤氏は同分科会助言者として活躍した。

この大会のテーマは「豊かな地域づくりに果たす公民館像を求めて」というもので、第一回は藤沢市民会館でのセレモニー。「複合化する施設と公民館」「住民主体による公民館」など十七分科会に分かれての討議が展開され、第二回目は「豊かな地域づくりをめざして」(コミュニティセンターと公民館の役割)をテーマとしてシンポジウムが開かれた。

このシンポジウムで、全公連第五次専門委員会委員吉里邦夫氏は、「民間カルチャーセンターやコミュニティセンター、複合施設等の台頭で公民館の独自性がおびやかされているような今日の情勢だが、公民館はもとよりそれらを生み出し育ててきた中核的存在だったわけで、今後も同様、公

県公民館大会終了一週間後の九月二〜三日、神奈川県藤沢市で第二十四回関東甲信越静公民館大会が開かれた。

この大会は、今年度関公連の当番県である東京都が第二十五回神奈川県公民館大会と併せて開催したもので、関東甲信越静ブロック内から約一千名が参加した。



のネットワークづくりである。」という痛感をもつ。

公民館関係法令集

内容・教育基本法
社会教育法、社会教育
施設令、公民館運営規
程基準、通達「公民館
基準の取り扱いについ
て」
A5判、34ページ
一部300円送料別
公民館関係の法令集に
ご使用ください。
甲沢宛、県公連事務局

県大会基調講演要旨



坂本正弘氏

80年代の経済社会
計画では、成長率4
%というのが、日本
経済がある程度均衡
を回復した場合の長

期的成長
でないか
という考
え方です。

なんと
か4%位
の成長
で、外需
に依存し
ない成長

を実現することが経済政策として重要であり、対
外関係も良くしていこうというのが基本的考え方
です。

とにかく今、世界経済の2つのガンは、高金利
と日本の輸出であると言われており、日本経済の
あり方に批判が高まってきております。

その日本経済も財政赤字の中での財政々策、金
利政策で回復がうまくいかないのですが、まだ日
本経済にはポテンシャルがあり、新しいニーズに
支えられた個人消費の基礎は固いし、エネルギー
投資等の合理化により、企業収益も底固いんじや
ないかと思うわけです。

このような、ポテンシャルを生かしていくこと
が、経済政策をやっている人間の義務であると思
えております。

しかし、今、条件のあまり良くない中小企業も
家計も積極的体制になることが必要であります。

また、日本の中に金融資産というのが増え、企業も日本
の中で投資するよりも外へ出した方がもうかるということで、
資本が段々海外へ流れ出し資本輸出国になりつつあり、他の
国の成長を助けるのは結構ですが、日本経済の足元は明るく
景気は底離れしたんじゃないかという議論があります。

しかし世界経済は、アメリカを中心に高度成長に転じてお
り、それが逆に貿易摩擦の問題をもたらしていますが、石油
の値下りという問題もありまして、日本経済はしだいに明る
くなるんじゃないかという期待があります。

日本経済は、持続的内需成長というものを実現することが
第一であり、同時に対外関係、特に対米関係というのが今後
重要で大きな課題です。

1980年代の経済社会の展望と指針の中の重点というのは、
第一に行政改革の推進、第二に産業構造の高度化に支えら
れた新たな成長の歩み。

第三に民間活力を要重視して、その活力の導入。

日本を支えるのは日本人 複雑な国際経済社会への対応

第四に国際協力の推進という4項目にな
っておりますが、私はかねがね三つの問題
として考えております。

第一に経済ダイナミズムの維持をいかに
図るか。

第二に福祉社会の建設をどのように進め
ていくか。

第三に国際化の対応、ということで考え
ております。

経済ダイナミズムの維持で
は、財政赤字をどのように処理
していくかということが重要な
問題であり、福祉社会がどんど
ん進んでいる中・高令化社会が
進み、1990年頃より生産年齢人
口と従属年齢人口が逆転し、社
会保障基金が爆発し、赤字にな
り、これをなんとか処理しない
といけなくなるわけです。

日本の財政赤字の特色は、1
つは日本の財政規模そのものに
あり、もう一つは政府全体いわ
ゆる中央政府の赤字というものが地方政府への補
助金と社会保障基金への支出がかなりの分を占め
ていることです。

このようなことから、財政再建というのは、全
体の支出を切っていくということが基本的な方針
で、全体の枠を見直すと同時に中央政府と外との
関係を少し改善していくということが今の基本的
方向で、急激に赤字をつめることは具合が悪いわ
けです。

また、福祉社会の建設ということでは、長い生
活文化のなかで、日本社会が生きてきたのは4つ
の縁(血縁、社縁、地縁、文化縁)が互いに協力し
てきたという、他へも輸出できるようなシステム
をどのように維持していくかということであると思
います。

公的企業等の民間活力の導入という議論がありますが、プ
ロセスでは、大変な問題をはらんでいるのです。

国際化への対応の中で、緊急性という意味では、対外関
係、特に対米関係が非常に重要な問題だと思います。

今までは、アメリカが安全保障にしる、エネルギーにし
る、経済問題にしる、あるシステムをもってやってきたので
すが、アメリカ経済の財政赤字等により、うまくいかず、
自分のことは自分でやりなさいよ、という風になってきてお
り、今後アメリカは軍事的には、備った体制になると思いま
すが、経済的には日米関係をどのようにしていくかというの
が今後の重要な課題です。

そういう意味で日本のこれからは内需中心の成長というこ
とと、日本産業がどしどし海外へ出ていくことが大事であり
ます。

このような場合、日本社会を支えるのは、日本人であり、
そういう意味では、公民館の仕事というのは、大変重要な仕
事であると思います。

わが国経済の現状と展望

経済企画庁審議官 坂本正弘

公民館活動の指標は何か

それぞれ一つ一つ公民館の活動の中で焦点化して取り上げている問題というのは、この消費と生産がうまくいっていない証拠だろうと今思うわけです。どれかたりないというのではなくて消費や今までの蓄えが非常に乏しかったんだろうということでもあります。

したがって、その生産力というものを高める必要があると思うわけです。そのためには公民館が今までのあり方から脱却し、生き方を学ぶ事業というようなものを公民館事業の中で組む必要がある。そのことが消費を裏付ける力になっていくのではないだろうかと思えます。

従来二つの対応の仕方があると言われてきたのですが、一つはライフサイクルをきめ細かに分析し、年令に対応した事業というものをきめ細かに組んで行く必要がある。

一方、年令、性別に関係なく長い人生に対応する事業というのを組んでいくことが確実になされた後に、はじめて今後の社会に対応した公民館活動が実現されてくるのではないかと思います。

一方、孤立化していくからこそ、反対の共同ということが必要になってくる。その共同というもののキーポイントは、まずは、自分自身の生活を充実させることから始まるんだろうと思うわけです。こういうことで公民館の事業というのをもう一度位置づける。つまり世の中を自分から見るのではなくて、世の中から自分を見ていくという考え方、生き方というものを、その地域住民の中にかもし出していく。そういう土台をつくっていくことが公民館が果た一つの役割でなかろうかと思えます。

住民自らの手で創造する文化

池田正晴(新井市長)

当市では、各種補助金を導入しながら約90カ所位に集会場、集会施設をつくっておりますが、本日お集まりの文化ホールは、本年出来たばかりでありまして、この管理運営は民間の法人をつくりまして行っております。何故そうしたかといいますと、これからの地方文化というものは官製ではだめであり、市民住民の手でもりあがってくる文化をつくるのが地域文化のほんとうの姿であると考えておるからです。

そこで21世紀の指標は何かということ、私は「市民総参加の公民館活動」が21世紀をめざす公民館活動のあり方であると考えております。

住民自らのボランティア活動、自らの参加意欲で公民館活動に参加し、もり上げていくという、こういう姿をぜひ実現したいと考えております。

そういうことを目標とする三つのことを私は考えております。一つは地方自立の時代を迎えなければならないので、地方自立の環境づくり、これには公民館活動が非常に大切であり、市民自らの手で行政に参加し、行政にご協力願えれば、安く実のある行政が出来ると思えます。二番目としては、学校教育の補完、これは今後も青少年健全育成に力を入れてゆかねばならない時代が続くと思えます。三番目には、高令化社会への対応、これは、お年寄の皆様が生き甲斐を見出し

て、毎日毎日の生活にはりあいをもって生きていけるような地域社会をつくってゆきたいと思っております。この三つを目標として、市民総参加の公民館づくり、公民館機能の確立これが今後大事なことだと思います。

ネットワークの中心としての役割

大島有史(県社会教育課長)

当県の公民館数は、642館で全市町村に設置されており、県の公民館整備の指標、中学校区あたり本館最低一館という目標は90%達成されております。また、毎年国庫補助で整備される数も相当数にのぼり、コンスタントに増え、量的な面では着実に進展がみられていると思えます。

この国庫補助の関係では、だんだん先細りという傾向が出てきているのであります。

臨調答申の中にも社会教育施設の補助金については、縮減するか対象を限定しなさいというふうな話がでてきているわけでありまして。

社会教育関係者は、公民館の活動は重要でその拠点となる公民館をつくっていくということは非常に住民ニーズに合っており、将来長期的に考えた場合にも短期的にも重要だといっているのですが、行政改革の中で事業の優劣を決めることは出来なく、結局皆が痛みをわから合うように一律にカットされているのが現状です。

このように、国庫補助が削減される中で、これからの公民館整備をどのようにしていったらよいかということが悩みであります。

公民館の数は足りているのか、いないのかということですが、アンケート調査によると「学習施設に満足しているか」という問いに対し、一応満足しているという数字が7割程度あるわけですが、「行政にいちばん望むことは何か」とききますと「身近な施設がほしい」ということが圧倒的に多く、これからも公民館の整備をしていく必要があると思えます。

それから、いろんな形でいろんな機関が同じような集会施設をつくっているのですが、こういうものと公民館との関係をどう考え、公民館の優位性をいかに保つかということが今後の一つの課題でないかと思えます。現在の職員体制では、優位性を見出すことはむづかしく、今後理事者の方々のご理解をもって指導員・職員の充実を図っていただきたいと思っております。

また、弱年層ほど公民館の利用率や充実してほしいという希望率が低いのですが、21世紀に生き21世紀を支える青少年と公民館のふれあいというのを、今からどどんつづくということが必要であると思えます。

これからの公民館というのは、数を増やしていくという量的な面にウエートを置くよりも、これまでである公民館ないし、いろんなセンターとのネットワークが中心として、すぐれた指導員を置いて公民館活動をやっていくという活動面の工夫というものが求められているのではないかと思っております。

県大会パネル討議要旨

司会者 矢島三吉 (県社会教育委員)

公民館活動の現在はどうなのか、21世紀という新しい時代に向ってどう指向されているのだろうか、その指標となるべきものは何なんだろうかということが今日を中心テーマです。

本日ご登壇の方々からは、それぞれの立場から皆様方の頭の中に入るように大きく2つに分けて公民館をめざすハードな面とソフトな面から公民館の指標はどうあるべきかといったようなことで、お話を分けて進めてまいりたいと思います。皆様方もそのように頭の中でキャッチしていただきましてこのディスカッションにご参加いただきたいと存じます。

学習の場公民館をP・R

丸山タミ (新井市婦人会長)

公民館は単なる貸館でなく、従来もっていた地域社会教育の拠点としての役割を十分に発揮していただきたいと思えます。

公民館は「学習の場」であることを知ってもらうためにP・Rする必要があるのではないのでしょうか。

市民のための学級や講座、その他多様な学習の場を設け、一人でも集団でもいつでも気軽に出席できるような体制をとってほしいと思います。

これからの時代は一層高度な教育内容を望んでくると思います。また、継続的学習も望んでくると思います。そのような場をゆくり設けていただきたいと思えます。都市化が進むにつれて、今までのように職場を中心としたグループや集団に属さない人々が益々多くなってきます。そういう人が自由にいつでも学習できる魅力溢れる雰囲気をつくっていただきたいと思えます。

また、各種団体と協力し合い、調整をとった事業を計画した方が公民館の味が出ると思えます。

公民館というのは、いつでも気軽に出入りができて、いつでも悩みごとでも何でも職員と話しができるような雰囲気にしていただきたいことと、私達がいつでも学習ができるような雰囲気をつくっていただきたいと思えます。

私は昨年このような立場になったわけですが、経験がないため右も左もわからず、色々と相談させていただきほんとうにありがたく思っておりますが、ただ一つ困ったことは職員の方がかわると今までの経過もわからず、聞いてもわからなくなってしまうことです。行政側をお願いしたいのですが、できれば専任職員を一人か二人置いていただきたいと思えます。

施設と専任職員の必置

小倉三治 (三条市中央公民館長)

戦後、公民館が青空公民館から始まり、間貸り公民館、そしてようやく今日独立公民館へと大きな発展を見ることは、公民館として誠にうれしいことです。

しかし、民間施設等に比べるとまだまだ不十分です。今後は民間施設等に比べても、まさるともおとらない施設整備が

21世紀を望む

必要だと思えます。

具体的に申し上げますと、私は元来施設とは人を含めて施設であるんだと考えております。現状は、建物はできたものの、十分な職員配置がなされていないといっても過言ではないと思えます。施設の基本というのは人を含めてなんだと強く提言申し上げるものでございます。

地域住民に慕われながらまた期待されながら、大きく支えられ、今日のように発展した公民館。施設の整備と共に、これらの問題解消のため努力することが21世紀を望む公民館活動の振興のしるべであると思えます。これから21世紀に向かう公民館のほんとうの指標は、施設に合った職員配置、すなわち常勤館長、分館長、専任職員の配置こそが、真にその指標の原動力になるだろうと思えます。

連携共同化をめざす複合施設

宮下桂三 (板倉町公民館長)

地域住民の学習要求を満足させるためには、専門施設が数多く、それぞれの機能が発揮できるような体制で、それぞれ近接して整備されることが望ましいことで、その中において公民館が世話役の立場で事業を調整し、施設の連携を図り、これが継続的に行なわれるならば施設の理想的な形といえると思えます。

しかし、小規模市町村では財政面等々からみても早急に対応することは困難であり、住民の「各種の学習を1カ所でできないか」という願いを充足させるためには、各種専門施設を一つの館の中に取り組みで、各機能を果しながら連携を密にする複合施設が考えられます。今、各種の事業が各行政的立場から別々に縦割の中で実施されている現状の中で、複合施設は施設設備の共有化、事業の連携共同化等の方策によっカ所で多くの学習要求をはたすことができますし、機能的複合一化もできると思えます。

課題としては、指導、管理の一体化、事業の協同化等々で多くの問題はありますが、生涯教育推進協議会というようなものを組織化し、公民館が世話役となって、各所、管庁、各団体等が横のつながりをもちながら一つ一つの問題解決につとめるならば一そうの充実が図られると思えます。

自らの姿を見ずえる必要

前田 幹 (上越教育大学教授)

一つたとえて言うならば地域住民と公民館及び事業というのは、地域住民から見れば消費と生産の関係にあるのではないかと思います。つまり住民は毎日毎日自分の蓄えてきた力を出しながら生活をしていく。そういう意味では消費の立場にある。ところが消費していくには何かなければいけないのですが、そういう生産、蓄えの機会を提供するのが公民館ではないかと思うわけで、消費と生産の関係だろうと思うわけです。

いま問題になっております青少年の健全育成の問題、地域づくりの問題、老人の生き甲斐の問題、さらに余暇の問題、

大会参加の記

第34回新潟県公民館大会六百名の参加者の中から無作意に三十名の方々を選び感想文を依頼したところ、十七名の方々から送稿をいただいた。今月号と次号にその一文を紹介する。

忙しいとき

こそ学習を

小山 愛子

はじめて、こういう大きな研修会に参加して、あらためて主婦の立場を見つめ直してみた。

この町村でも与えられたまじしい財政の中で親しまれ活用される公民館を目指している。しかし現状は共働き家庭、生活優先、公民館事業を見向きもしない人達が増えつつある。「忙しいこそ余裕はない。」と言う声を聞くが、果してそうなのだろうか。と。

つもみの中で反論してみよう。子育て、家庭作りはまさに戦争、一つたりとのおおぞかさはなきない。でも目標に向かって一杯生きている時は、不思議に主婦の暇もなない。互いにかたがひの仕事も気持もどう処理されぬ気も少ない。しかも、その忙しい中から学習時間を見出すことも努力するものである。

る。だから参加は決して無意味ではないと確信している。



活動の体系化を模策 二十一世紀は定着と充実の時代

パネル討議に

共 鳴
樋口 龍蔵

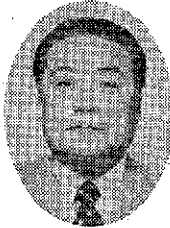


大会のテーマに相し新装成つた新井松久文化センターで開催されたことは感銘深いものがあったと思ひます。

はそれぞれの立場で経験豊かな方々であり、内容もバラエティーに富み二十一世紀を望む公民館活動の指標として充分理解し共鳴できるものであります。

には社会教育の類似施設が建設され、学習内容も多様化している現状から、これから公民館の果たす役割の重要性を認識し改めて再認識すると共に施設整備と関係職員充実の必要性を痛感いたしました。県の大島社会教育課長が発言の中で若年層の公民館の利用率と充実率の低さを指摘したことは今後の公民館活動の中でいかに対応して行くか一つの課題だと思ひます。

大会とはこんなものなのか
楠 利雄



六月一日附で時令を責め、唯夢中で事業に取組んでいる新米館長が、少しでも知識を広くキキ細かな活動に活用すべく努力して

生き方の生産性を高める

長尾 義正



消費の追いつくため、生き方の生産性を高める時代、住民の一人一人が孤立化し、利己的になって他人との間に深刻になる、その時の公民館は消費の追いつくため、生き方の生産性を高める時代に入らなければいけなると論じた。

のことを、それぞれの立場で論戦したかったが、遂に出でこなかった。公益結婚をどのように、とか費用の点をどうすべきとかで終る。私もかつて公民館にいたが、公益結婚は公民館の仕事でない、と強く講師に叩かれたことがある。廿一世紀に向って、いつまでも、簡素化、節約化を千年一日の如く呼びつけていることが、住民に受けとられていないことに気が付いた。

色紙(表紙絵)募集
公民館の絵画教室での傑作、利用グループの中を、なるべく多量に置で書かれたもの。絵の内容は名画、旧跡、文化財などのほか、表紙に書きたいものであればなんでも結構です。説明文は四百字程度をお願いします。

なテーマに、またテーマに輪をかいた講演「わが国経営の現状と展望」余りの程度は聞きすぎるくらいに、私のようなボンクラ頭には理解できない話。同年も公民館に関係し事業に携わっているところの話を必要になり、またわかっていけるのかなあと感じます。

午後のパネル討議で新井市婦人会長丸山タミさんが、婦人会長を引受け、公民館が眞の相対相手だったと体験を語られたが、二十一世紀の世帯ももちろん大切ではあるが、丸山さんの主張のようにならなければならぬという問題が私には必要だったということが頭に残った。

「大会とはこんなものなのか」という何か虚脱感のよきなものを抱いて帰りの高速路を疾走した。(栄町公民館長)

あの頃のこと

オンチのうた

松本 十三雄

日記を読み返す

(2)

Eさん、と呼ぶことにする。南だから飲む。従って酔うというところの公民館主事であった。薄着の公民館主事であった。Eさんは大の酒好きであった。郡下町村公民館主事会議というのが山ほど開催されていたが、きまがらから「終了後持ち寄り懇親会をもちますから」という発議があるのであった。

当時は、懐気というカールズというか、会議指書者である郡公連会長が進行する「会議負担金」の領収書があれば公費の支出をして貰える。だから大方は賛成し、南浦教育庁出張所社会教育担当であった橋本栗菜先生、柏沢宏先生をまよえ、なんともなる魚屋の二階と化した所で宴会が開かれる。毎日同じ場所では面白くないというところになるから、会場の選定と連絡をさせられる事務局職員は大へんだったと思う。五十嵐栄子さんとという人がその任だった。Eさんは、大の酒好きであったが「酒豪」と呼ぶ程に飲めどは「えなかった。強くないのに、好き

抗節を教えるから」と随分勧めたことがあったが「俺はダメのがんだの一点張りでもり合おうとなかった。兵隊の経験があれば、「同期の校」くび歌えるのだがこの人に軍隊の経験はなかった。けれど、そのEさんになって気分の高まりをどこかで発散させたいという欲求はあったのだ。自分のこのうたのうたのうたを分っ

と、Eさんは、宴会がある程度進むと、しきに人々に向かい「歌をうたえ、踊りをおどれ」と勧めるのであった。そういう雰囲気が好きなのであった。誰かが歌い、踊り盛んなのであった。それを盛り上げるという状態になるとすぐなる御気をまよえ、なんともなる魚屋の二階と化した所で宴会が開かれる。ところがEさん自身は歌わない、踊らない、というよりも歌えない、踊れない人であった。首筋を構わず歌い出して周囲をヘキエキ中なのだが、決して歌おうとも踊らうともしなかった。後になって「それで公民館主事と一審簡単な戻ら、ここでも文字がびっしり内



不立文字

浅間 勝衛

バロメーターなのであった。それがEさんにとって唯一の意思表示の態度なのであった。彼が酒の入った鏡子をぶら下げ、二杯を酌して煙のだった。突然、誰かということなく、相手を身を寄せ、その頬に手を巻いてその耳もとに口を寄せて「ウオー」と叫ぶのであった。叫ぶというよりも呼ぶのであった。やられた方はたまったものではな。初対面の場合は応待のすべを失う。私も勿論やられた。中野滋さんも佐藤貞止さんも奥原秀太郎さんも初対面のとときにやられた。管である。縁のある者は「そろそろ始まる」と警戒するものだから、初対面の人が得てしてやられるということになる。しかしこれこそは、Eさんの御気謙の最高なのであることを示す

野にも山にも文字が転がっていた。曠の曠にまでこびりついていた。これじゃ夢にまで文字があらわれ、魔されるだらう。さても人間とは拒介なもの。これじゃ叶わぬ。夜なかに起きて静座し

ティが開かれ、どなたも楽しそうである。詩吟大会といえは学校の体育館が一杯になる程の参加者が。日曜日のお昼前「あなたのメロディ」というTV番組で発表される歌をつくっている人はみんな普通の人ののである。普通の人が普通の生活をしてい、その姿をこそ「世態」と呼ぶのであろう。公民館が「世態」とどう関わってゆかねばならないか、Eさんを想い出し、Eさんが兜箱に入ってから十年余に、彼が今日の「世態」をどうな思いで見ていることであろうか、三千年というのはい時間なんだなあ、と歌た感概に堪えない。(日附市 前社会教育課長)

ていたら 身は野をわたる風やも知れず 夜空に透きとおる星座やも知れず 森羅万象ことごとくわが生命かと疑われるばかり 身は羽毛となり かぎりなく透明となつてゆくようにも思われた (元糸魚川市公民館長 埼玉県越谷市在住)

投稿歓迎

感想文でも結構、折にふれて気軽にペンを走らせてください。採稿されたは粗品を差し上げておきます。

—編集部—

あとがき

(本)

本会事務局の本間照子さんが十月十日結婚することになりました。お相手は奥職員の高井俊一氏です。皆さんとともに祝福したいと思います。これまで、零細企業のようにコマコマとした事務局の仕事をごなし、本紙の編集事務・発送事務まで、とてごうりなくやってくれたベテラン職員、結婚後ものさつごき勤務してくれそうです。それにしても、先月以來、公私ともにまったく多忙な原公達でした。

資料歓迎

公民館で作成した資料や文芸作品集または録音などをご送付くださいませんか。県内の皆さんへも紹介してまいりたいと思ひます。